

令和6年度高岡市男女平等推進市民委員会会議録（要旨）

【 日 時 】	令和6年9月5日（木） 午後2時～午後3時30分
【 場 所 】	高岡市男女平等推進センター会議室
【 出席者 】	・ 委 員 13人（野口会長、岩田委員、老子委員、大平委員、川渕委員、坂田委員、鈴木委員、千野委員、中村委員、沙魚川委員、林委員、森岡委員、矢竹副会長） ・ 高岡市 7人（角田市長、二塚生活環境文化部長、山本生活環境文化部次長、竹内男女平等・共同参画課長、寺口男女平等推進センター所長、事務局2名）
【 内 容 】	1 開 会 2 市長あいさつ ・ 男女が平等であり共に支え合うことを念頭に、市政の推進に努めているところ。 ・ 女性活躍を進めるため、女性人材バンクの創設など様々なことに取り組んでいる。 ・ 男女平等・共同参画の取り組みを委員の皆様方のお力添えをいただきながら着実に進めてまいる。 3 委員紹介 4 会長の選任 ・ 高岡市男女平等推進条例第25条第4項の規定に基づき、委員の互選により会長（野口委員）を選任 5 会長あいさつ ・ 高岡市の男女平等・共同参画に関する施策、事業の審議について、委員の皆様のご協力をいただきながら、委員会の役割を果たしていきたい。 6 副会長の選任 ・ 高岡市男女平等推進条例第25条第4項の規定に基づき、野口会長が矢竹委員を副会長に指名。 7 議事 ◎ 会長 ・ 初めに、目標とする指標の推進状況、高岡市男女平等推進プランの取り組み、高岡市DV対策基本計画の取り組みを事務局より一括してご説明いただきたい。 ● 事務局 ・ 男女平等推進プランの取組状況を、資料1、2により説明 ・ DV対策基本計画の取組状況を、資料3により説明 意見交換 ◎ 会長

・目標とする指標の推進状況について、目標値に達成したり、目標値に近づいたりしているが、N0.15「男女平等推進センター利用者数」の目標値12,000人に対して、最近では4,000人台となっており目標値とかけ離れている。コロナによる影響もあったと思うが、どのように目標値を設定したのか事務局よりご説明いただきたい。

● 事務局

・コロナ前まで、登録団体の利用や、センターサロンで本を読んだり、休憩される方もおられ、利用者数は10,000人近くあった。この数を上回る数として12,000人という目標値を設定した。

・コロナ後もセンターで開催する講座への参加呼びかけ、登録団体の活用促進、センターサロンの利用を促す館内案内掲示等を行っているところ。

◎ 会長

・センターの利用者数の増加方法について皆さんの意見を伺いたい。

○ 委員

・センターを利用するには、近隣の有料駐車場に車を停め、そこから歩いてセンターに来る必要がある。登録団体の中には高齢化している団体もあり、歩くことがしんどいと思う人もいる。高岡市ふれあい福祉センターは、入口に横付けし荷物を運び入れることもできたいへん便利であるため、ふれあい福祉センターを利用することが多い。

○ 委員

・コロナ禍によって、団体の役員会等はLINEグループを利用するようになり、現在も活用している。センターまで来る必要性が薄れてきた。

○ 委員

・高岡市の施設は立地条件がマイルドではない施設が多い。市営駐車場の料金の高さ、エレベーター等を利用しなくては会場まで辿りつけないというのはハードルが高い。また市役所をはじめ、市の施設は雰囲気がかたい。利用者が訪れやすい立地にあり、和やかな雰囲気の施設にしていく必要があると常々感じている。

○ 委員

・高校生が勉強で利用しやすいように工夫したらどうか。センターサロンの利用時に男女平等・共同参画に関するチラシ等を配布すれば、若い世代への啓発にも繋がるのではないか。

○ 委員

・夏休み等、センター会議室に予約が入っていない日は、子どもたちに会議室を開放したらどうか。3階の学習室から誘導するような仕掛けをしてはどうか。

○ 委員

・中学生も夏休みに勉強する場を求めている。家ではなかなか勉強が進まないときも、友だちと教え合いながら勉強できる場があるとよい。

● 事務局

・コロナ時にはサロンの利用に制限をかけていた。今後は、センターにもっと入りや

すい雰囲気作りと、若い世代への男女平等・共同参画の推進の啓発に努めていく。

◎ 会長

- ・年間超過勤務時間が 360 時間以上の市職員数が増えたのは能登半島地震の影響か。

● 事務局

- ・震災対応の影響です。

◎ 会長

- ・NPOや市民活動団体の活動紹介パネル展示について、展示場所を増やしたとのことだが、その参加団体数と手ごたえは。

● 事務局

- ・24 団体が参加。地域課と社会福祉協議会（ボランティア連絡協議会）と男女平等推進センターの合同開催であり、その甲斐があり多くの団体に参加いただいた。

○ 委員

- ・資料に記載があるファミリーポケットという子育て支援を今まで知らなかった。子育て支援に限らず、障がい者支援、外国人支援など、市の支援の全体像が分かりにくいと思っている市民もいるのではないか。リーフレット等を工夫し、市の支援の周知に努める必要があると思う。

● 事務局

- ・子育て支援情報については、高岡市子育て専用サイトアプリ「ねねットたかおか」で支援内容を網羅しており、市保健センターに妊娠届出を行った際に周知している。
- ・障がい者支援のパンフレット「障がい者のための福祉ガイド」については、障がい者手帳の取得及び更新時に渡すことで支援内容を当事者に直接周知している。

○ 委員

- ・児童関連のDV相談件数が、令和4年度は4件であったのに対し、令和5年度は20件に増加している。増加の原因と支援内容についてご説明いただきたい。

○ 委員

- ・DV被害者支援者としての意見だが、相談先が周知されてきた影響が増加の要因と考える。また、DVの通報で警察が現場に行き、そこに子どもがいた場合は児童相談所と連携する。子ども単独のDVが増えてきたという見方はしていない。今後は、現在の相談件数が横ばいになると見込んでいる。

● 事務局

- ・DVは夫婦だけの問題ではなく、子どもを含んだ問題が増えてきている。支援としては、児童相談所と連携し、児童の安全確保を行っている。

◎ 会長

- ・学校の現場で子ども関連のDVについて感じることはあるか。

○ 委員

- ・学校の現場において、教師は子どもの様子を常に見ているので、家庭内でのDVやヤングケアラーについて感じることはある。必要に応じてスクールカウンセラーに繋いだり、（警察や児童相談所への）通告を促したりしている。

○ 委員

- ・子どもは悩んでいる子ほど相談できないことがある。明るく振る舞う子ほど、悩んでいることもある。そこを見抜く力量が教師に問われるところ。
- ・行政の子ども支援は、経済的支援がほとんど。もっと子どもに寄り添った支援を考える人が必要。

● 事務局

- ・本市では、本年4月にこども家庭センターを開設した。リスク家庭について、成人まで切れ目ない支援を行うこととしている。

○ 委員

- ・放課後児童育成クラブについて、共働き世帯が多くなり、ひとつの施設に多くの児童が利用している。スタッフは資格が必要なく、指導計画がないところもあり、施設によって差がある。高岡市が束ねている立場にあるなら、現場を確認し指導する責任があるのではないか。

● 事務局

- ・放課後児童育成クラブは、学校敷地や学校になるべく近いところで、適度な広さが必要であり、支援員の確保を含め、地域の協力を得て開設している。
- ・これまでは、施設を開設することに力を入れてきた面もあるが、運営の改善につなげていくため、昨年からはクラブから市へ現状をしっかりと報告してもらえるように見直ししたところ。

◎ 会長

- ・昨年度から開始した女性人材バンクについて、マッチング成約数は少ないが要因として考えられることは。

● 事務局

- ・求人事業者から登録人材に面談の申し込みがあったが、成約に繋がらなかった件がいくつかあった。自宅から働く場までの距離を理由に断られたことがあった。子育てなどで子どもの緊急時にすぐに対応できる距離で働きたいと考える人がおられると考える。

◎ 会長

- ・登録人材の条件が、子育て中の人、介護している人、移住から半年の人というのは、対象が狭すぎるのでは。その他の方にもニーズがあるのではないか。

● 事務局

- ・女性人材バンク立ち上げ時に、ハローワークとの住み分け意識して整理した。フルタイムで働ける人は、ハローワークを紹介する。ハローワークにおいても短時間雇用は取り扱ってはいるが、子育てや介護等で時間に制限がある中でも、個々の資格やスキルを活かして社会での活躍を支援する目的で女性人材バンクを開設した。

○ 委員

- ・市の男性職員の育児休業等取得率が50%を超えているが、取得率促進のために、どのような働きかけをしたのかお聞きしたい。民間企業の参考になるかもしれない。

● 事務局

- ・令和４年度施行の改正育児介護休業法において、男性の育児休業の取得条件が緩和された。その制度周知や育児休業取得者の経験談等を市職員向け広報によって、職員に周知するなどの取り組みで、育児休業を取得しやすい風潮が市役所内で高まってきていると考えられる。

○ 委員

- ・高岡市DV対策基本計画では、取組のひとつにDV加害者対応のための連携が掲げられている。私は警察と連携して、ストーカーの加害者のカウンセリングを行っている。DV加害者の対応についてはどこもほとんど進んでいない状況のため、取組状況を参考にお聞きしたい。

● 事務局

- ・センターでは、被害者支援を主に行っており、加害者対応については国の動向を注視している。先日、加害者更生プログラムについて問合せがあり、情報収集して情報提供を行った。

◎ 会長

- ・市がこれから加害者対応について取り組まれる際には、委員の先生の協力をいただくと良いだろう。

８ 閉 会

● 事務局

- ・これで本日の高岡市男女平等推進市民委員会を終了とする。

〔以 上〕